

このように、事実を基に子供の資質・能力の発揮、伸長を可視化する実践記録への記述する取組を、研究協力者である小学校教員にも行ってもらった。結果、幼稚園教員と同様の子供の学びを見取る力量を高める効果を小学校教員が感じている。資質・能力の発揮、伸長を支えることは、小学校教員にも求められていることであり、その力量形成に本研究で取り上げている実践記録フォーマットが活用できる実証が得られた。

## (2) 子供の資質・能力の発揮、伸長を可視化するドキュメンテーションの作成

子供の学びの過程を子供と教師、保護者間で共有しようと、ドキュメンテーションを作成している。実践記録と同様、遊びの中にこそ豊かな学びが存在することを可視化しようとする取組である。具体的には、遊びや生活の様子が分かるように、写真を使って、子供の行動やつぶやき、教師の解説、子供の学びを整理して表現している。このことは、子供が資質・能力を発揮、伸長している場面を切り取っていく取組であり、特に、その際の子供の思考の過程を可視化している取組である。

クレパスでうさぎを描いたよ 10月17日

2学期に入り、幼稚園の「うさちゃん」に慣れ親しんできました。そこで、おやつ後にうさちゃんのお家に入るのが楽しい子どもも多くなっています。そこで、  
○描きたいもの（うさぎ）を思い浮かべて描く楽しさを感じる【感動の表現】造形  
○うさぎにはふわふわの体や顔、長い耳、手足、丸いしっぽ、目があることを思う【自然との共生】生き物・いのち  
○クレパスの蓋が壊れてしまわないように、また、周囲のスペースを広く活動できるように、クレパスの蓋を重ねておく方がいいと教えてもらったり思い出したりしようとする【豊かな暮らし】道具  
○白い紙に書いても見えない白色のクレパスも、濃い緑の画用紙に描くときれいに見えると感じる【ものと現象】事物

主に以上のことをねらい、初めて、「100を描こう」という活動をしました。  
描き始めるまでにまず教師が、うさちゃんは白ふわふわの体がまるいよねと描き始めてみると、「顔もある」「目もあるよ」「耳！長い」「しっぽは丸いよ」「足がある」「手はないんじゃない？」と子どもたちの知っているうさぎの体つきについてどんどん言葉が出てきて、それをつづつ書き加える形で、途中で描いて見せ、描きたいと思ってそれぞれが用意をして始めました。



用意のしやすい片付けのしやすさを考慮し、プレイボード（青い版）で床で活動しました。  
すぐに活動に取りかかれるという良い面もありますが、子どもたちの中には片足を立てて描く子、集中してとすぐに活動に取りかかれるという良い面もありますが、描きにくそうな子どもには声をかけましたが、こういった姿勢に慣れさせていくように寝転んでする子などもあり、描きにくい環境の大きさも考えました。一方で、バスで力を入れて描く子どもの姿も感じました。改めて集中して描きやすい環境の大きさも考えました。園内では床での活動も今後多くあります。経験をしていくことも必要だと感じました。

3歳児 10月

「クレパスでうさぎを描いたよ」

かけたよ!!



耳の中はピロロ!!

長い耳が、人間の同じ場所についていたり...

うさぎは、ピンクと白と、迷いなく書き始めたり。赤い色はうさぎと書いたり...

上のおうさちゃん

お話し中だけに、両手の中の一部だけ、顔は写る。と、いろいろなうさぎの顔が...